

経過	入院日～手術前日 入院日(/ /)	手術当日 (/ /)	術後1日目～2日目 (/ /)～(/ /)	術後3日目～7日目 (/ /)～(/ /)	術後8日目～14日目 (/ /)～(/ /)
目標	1. 手術・麻酔の理解出来る 2. 安静の必要性を理解出来る 3. 鎮痛薬を使用し疼痛を緩和できる	1. 手術を受けるための準備が整っている 2. 安全安楽な環境で手術を受けることができる	1. 創部からの出血や腫れ、熱感がない 2. 鎮痛薬を使用し疼痛を緩和し、リハビリを進めることができる		
検査	○手術をするための必要な検査をします ・血液・尿検査 ・心電図・レントゲン・心エコーなど	○出血が多い時は、輸血します	○必要に応じ血液検査 	○血液検査(術後7日目) ○レントゲン	○レントゲン ○抜糸、抜鉤(術後14日目)
活動・リハビリ	○手術まではベッド上安静になります。 ○場合に応じ、牽引(重りにて足を引っ張り)し、痛みを和らげます。	○ベッド上安静  ○手術後は疼痛があり体動が出来ないため看護師が体の向きを調整します	○病棟又はリハビリ室で訓練します 	○リハビリ室で訓練します 	
処置	○弾性ストッキングを準備します * 詳しくは手術前パンフレットをご参照ください ○貴重品は、家族の方に預けてください	○手術に行く前にめがね・入れ歯・時計などを外します。化粧・マニキュアはできません ○点滴・内服・注射をして、看護師が手術室まで案内します ○家族の方は、手術が終わるまで待機して下さい(1階待合室にて) 《手術後》 ○血圧計をつけ、定期的に観察をします。 ○しばらく酸素マスクをつけ、酸素吸入を行います。 ○血栓予防の為、弾性ストッキングは指示があるまで脱がないで下さい	○消毒(術後数回) ○心電図モニター・酸素吸入をはずします ○足背運動(足首を動かす)を行なってください ○車椅子に乗れ歩行訓練が始まるまで弾性靴下をはきます 	○抜糸(術後13～14日目)	
治療・薬剤	○必要に応じて痛み止めを使用します。痛いときはお知らせ下さい ○服用中のお薬があればお知らせ下さい 	○食事が摂れるまで点滴をします ○抗菌薬の点滴をします ○必要時、痛み止めのお薬を使用します	○食事がとれたら点滴を終了します ○抗菌薬の点滴をします  ○痛みがある時は、痛み止めのお薬を使用をします(お薬が必要な時は、お知らせ下さい)		
食事	○手術前日、夕食まで食事はできます ○絶飲食の時間は麻酔科の先生や看護師から話があります(指示の時間以降食べてしまうと手術ができません！)	○手術後許可が出たら、お水や食事がとれます 	○食事の制限はありません		
清潔	○体の清潔(清拭・洗髪)		○体を拭きます 	○出血がなければ防水し、シャワー浴ができます(一人で入れるまで看護師がお手伝いします。)	
排泄	○前日までに排便のない方は、坐薬か浣腸で便をだします	○手術後尿の管が入っています	○尿の管をぬきます ○尿器・車椅子で排泄します(車椅子が上手になるまでお手伝いします)		
説明	○手術説明 ○麻酔科説明 家族の方へ手術日の来院時間を確認してお帰り下さい 				《退院時》 ○退院オリエンテーション ○紹介先病院への紹介状があります

治療の流れ

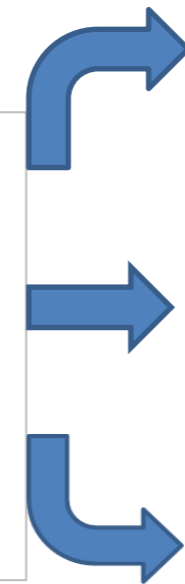
手術 → リハビリテーション → 退院

(車椅子 → 平行棒内歩行 → 歩行器歩行 → 杖歩行 → 独歩)



手術後に特別な合併症が無ければ1～2週で転院です
転院先の病院・施設にて専門的なリハビリを継続します

当院退院



回復期(リハビリ病棟)

・地域連携室と相談しながらリハビリ病院に転院出来るように調整します。地域連携パスを使用しながら、転院先と連携をとっていきます。

介護施設

・在宅での日常生活を想定して過ごします。
・在宅に向けてのリハビリを行います。
・自宅の家屋状態、生活様式をチェックし、住みよい環境作りのお手伝いをします。

在宅へ

・自宅の家屋状態、生活様式をチェックし住みよい環境作りのお手伝いをします。



説明者: 福岡東医療センター 医師:

説明日: 年 月 日

上記内容に承諾しましたので同意します。

患者: ご家族サイン:

この計画書は、標準的な経過を説明したものです。あなたの状態により異なる経過になることもあります。ご質問がありましたら遠慮なくスタッフにお尋ねください。